

推薦書

松浦雅人先生は東京医科歯科大学名誉教授であり、これまでてんかんと脳波の研究、教育、診療に大きな功績を残されました。

松浦先生は 1974 年に東京医科歯科大学医学部を卒業後、同大学精神科に入局されました。島藺安雄教授の指導のもと脳波のコンピュータ分析の研究に従事し、小児から成人に至る 1500 名を超す健常人脳波を解析し、脳波発達の定量化によって学位を得られました。その際、30 名(1.9%)もの健常人にてんかん性放電が出現していることを観察し、その後の長期追跡によりてんかん性異常波の情動・行動との関連やてんかん発症例と非発症例との差異等を明らかにしました。また、てんかん臨床では、抗てんかん薬の追加投与、過量服用、急激な断薬などによって精神病状態が誘発された症例報告を行い、てんかんに併発する精神病(いわゆるてんかん精神病)と抗てんかん薬との関連について明らかにしました。

1993 年に日本大学精神科助教授に赴任されてからは、統合失調症といわゆるてんかん精神病との症候論的差異や、注視点記録や機能的 MRI などの生物学的指標を用いた鑑別を試みました。また、多施設共同研究を積極的に推進し、てんかん精神病の疫学、発作後精神病と慢性精神病との異同、統合失調症とてんかん精神病との双方向性関係などについての報告を行いました。

さらに、1996 年と 1999 年にはロンドンのクイーンスクエア病院の神経精神科(いわゆるジャクソン病棟)に留学し、Michael Trimble 教授の指導でてんかんに併発する精神病の多軸分類、精神症状をもつてんかんの外科的治療指針、日本におけるてんかん精神病研究の歴史などのレビューを発表しました。

2004 年に東京医科歯科大学保健衛生学研究科教授に赴任されてからは、事象関連電位を用いたてんかんの認知機能に関する研究、皮膚電気抵抗を用いたてんかん発作のバイオフィードバック療法、てんかん患者の経済行動学的意思決定過程や社会認知機能、社会的偏見に関する研究などを行いました。また長年にわたり、精神科やてんかん分野における多くの医師やコメディカルを育成し、研究へのサポートを惜しむことなく継続してこられました。

日本てんかん学会では、2009 年から理事、法的问题委員長、2012 年には第 46 回学術大会会長を務められました。ちょうど 2011 年に重大交通事故が発生したことから、道交法改正や処罰法制定に向けて、学会として声明を発表し、学術大会でワークショップを開催し、関連 6 学会と連携して提言をまとめるなど精力的に活動されました。てんかん治療研究振興財団では長く評議員や理事を務められ、数々の企画、審査、報告会などで重要な役割を果たして来られました。

主な受賞歴は、2014 年に日本臨床神経生理学会賞(島藺賞)、2017 年に日本てんかん学会功労賞、2022 年に日本てんかん協会木村太郎賞があります。

松浦雅人先生はこのようにてんかんの研究推進、診療向上、社会的活動が高く評価されており、てんかん治療研究振興財団研究功労賞にふさわしく、ご推薦申し上げます。

原クリニック院長 原恵子